

各中学校区の協議内容

①隅田中学校区

1. **「すみっしープロジェクト」の活動と周知の課題**

隅田中学校区は「すみっしープロジェクト」を軸に共育コミュニティを進めています。一方で、市の放送を利用した「すみっしーソング」の放送が個別受信機の導入に伴い中止となり、今後の活用方法が課題となっています。また、小中学生によるすみっしーポスターの制作・掲示を行っていますが、地域内での周知・伝達が十分ではないと感じられており、改善の余地がある状況です。

2. **地域と児童生徒の交流減少**

地域と児童生徒が関わる機会が減少していることが課題です。コロナ以前は、中学生が地域清掃を行い、地域とのふれあいの場となっていました。現在は中学校側の負担を考慮して中止されており、取り組みの復活に向け地域との連携方法を模索する必要性が認識されています。また、一斉清掃についても、実施方法や提案の流れを見直し、負担軽減を図りながら進めるべきとの意見があります。

3. **地域清掃活動の改善策**

他地域の事例も参考にし、一斉清掃の実施方法を工夫する提案がされています。同じ日時に場所を区分けして清掃を行ったり、部活動が休みの日を活用して中学生の負担軽減を図ったりする方法が有効です。また、園児の生活リズムに合わせた清掃活動時間の設定も取り入れ、地域全体で無理のない形で活動を続ける方向性が示されています。(参考：紀見北中学校区)

②紀見東中学校区

1. **中学校との連携・交流の工夫**

紀見東中学校区では地理的要因により中学校との連携が難しいと感じています。今年度は、小学校6年生の部活動見学が雨で中止になった際に、別日に振り替えて実施してほしいとの意見があり、交流の重要性が認識されています。また、中学校区内にある初芝橋本高等学校とも協力を図る試みが進んでおり、地域内の団体とも連携し共育コミュニティの活動を拡大する可能性が検討されています。

2. **共育コミュニティの認知度不足と情報発信**

共育コミュニティや学校運営協議会の活動内容について「何をしているかわからない」と感じる地域住民が多い状況があります。SNSなどで情報発信をしているものの、学校のホームページを確認しない方も多く、情報の届き方に課題があります。認知度向上に向けてさらなる工夫が求められています。

3. **地域住民向け情報発信の事例紹介**

他地域の取り組みとして、「共育コミュニティだより」をA4サイズで月1回発行し、学校運営協議会委員が書いている内容を住民に伝えている事例が挙げられています。このだよりは自治会回覧を通じて配布され、学校の活動内容・方針を住民に周知する効果を発揮しています。このような取り組みが情報発信の形として参考になると考えられます。(参考：高野口中学校区)

③紀見北中学校区

1. **「寛容性」の追求と課題認識**

紀見北中学校区では課題について話し合ったものの明確な結論には至らず、「寛容性」に焦点をあてることになりました。寛容性とは、多数派(地域住民)と少数派(学校の児童生徒)を受け入れ

ることと考えられていますが、地域住民と児童・生徒が関わる場が少ないのが現状で、その場をどう創出するかが課題です。

2. ****健全育成会のモデル事例****

他地域では地域と学校をつなぐ健全育成会が活動の柱として機能しており、現在 84 名が所属しています。この会は地域団体からも参加があり、グループを組み各々の計画を進める形で活動しています。このような地域組織の取り組みは、学校と地域をつなぐモデルとして参考にでき、紀見北中学校区でも推進に向けた組織づくりが提案されています。(参考：高野口中学校区)

3. ****清掃活動による地域交流の事例****

高野口中学校区では、高野口駅や田原川の清掃活動を、田原川愛護会と協力して実施しており、地域貢献と交流の場となっています。このように組織を作ったうえで活動を継続することで、地域住民と児童・生徒の関わりを実現する方法が示唆されています。(参考：高野口中学校区)

④高野口中学校区

1. ****「子どもが主役」の取り組み****

高野口中学校区のコーディネーターは、共育コミュニティと健全育成会のどちらにも所属し、「子どもが主役」をテーマに活動を進めています。今年度は学校運営協議会で児童会との意見交換や、教育講演会で伊都中央高等学校・きのかわ支援学校の生徒による発表を行いました。また、この2校は一緒に授業を受けたり認知症カフェを実施したりしています。高野口小学校 150 周年記念事業では、児童が中心となってイベントを成功させました。

2. ****課題：学校・教諭との連携不足****

学校や教諭との関係構築が不十分であることが課題とされ、改善の必要性が認識されています。今後、教員と直接つながるため「共育コーディネーター」の常駐について検討する予定です。

3. ****認知症カフェへの関わりは現状なし****

認知症カフェの活動は実施されていますが、現状では小中学校の関与はありません。

⑤橋本中央中学校区

1. ****コミュニティ間の情報共有の重要性****

橋本中央中学校区には3つのコミュニティ本部が所属しており、情報交換の不足が課題とされています。運営協議会の内容を教職員に伝えることや、教員の協議会参加を促して、形式的ではなく実質的な機能を発揮する協議会運営を目指しています。

2. ****学校教職員・PTA・生徒会との連携強化****

協議会が形式で終わらないよう、学校関係者と知り合ったり、PTA や生徒会と話し合ったり、学校行事に積極的に参加することを大切にしています。そうした活動を通じて、地域と学校の連携を深めながら学校運営協議会の機能を強化する姿勢を示しています。

3. ****話し合いの成果と楽しさ****

橋本小学校で実施した橋小トーキングタイムでは、ヘスティアの参加でスムーズに進行した点や、給食の話題が年齢や地域性の違いから楽しかったという体験が挙げられました。今回は時間の都合で話し合いがそこで終了しましたが、その場の交流が良い経験となったことが評価されています。